

## 開かれた学校 個性を伸ばす教育

社会は変化し皆が生涯学習社会へと向かっている。学校に居る時期だけが学習の時ではない。社会に出て、自分の能力をさらに高めようと、学問に目覚め新たに学び始める。人は、興味のある事に対して積極的に行動できる。好きなものを見つける事ができれば、自分で考え、行動に移していく。個性を伸ばすという事は、好きなものを探し出す事だ。

1. 図書室を学校のへそに当たる場所へ配置し、いつでも利用できるようにする。子供たちの知識欲を満たすことのできる施設配置とする。
2. 教室の近くに芝生の屋外空間を計画し屋外での活動が出来るようにする。

## 自然との調和 自然の息吹を最大限に活用

自然の活用はランニングコストを最小限に抑えるだけでなく、子供たちに地球というスケールで自分達を取りまわっている環境を肌で感じるために必要な要素であると考えられる。

1. 季節ごとに調整できるように考える。
2. 屋根の軒を延ばす事により、南からの光を受け止めハイサイドライトから内部に反射させる。また、夏は風の通り道となる。
3. 普通教室は、軒をしっかりと出すことで夏の強い光を遮断し、冬は光を取り入れるように計画する。
4. 教室や、ホールは風通しを考えて配置し、夏は風の入り口は狭く出口は広くなるよう設ける。

## 地域開放と安全性 地域に開放しながら安全である

地域開放をする中で、不特定多数の利用者が来ることから、学校としてのシステムと利用者を分離することで事故を回避することが必要とされる。これらの問題は、アプローチと明快なゾーニングそして、管理しやすいプランで解決する。

1. 平日、授業がある時間帯と地域に開放する時間帯で、管理システムを用意に変更できるよう計画する。  
また、必要に応じて監視カメラ等の設備を設置できるよう対応した施設とする。
2. 普通教室棟・管理棟は地域開放された時、分離することで明快な平面計画とする。屋内運動場や武道館は、外部から直接利用できるように計画する。

## 開かれた学校 共に学ぶ

年令に関係なく学ぶ意欲を持つ人が学習する場が必要だ。興味ある事を、先生と生徒、共になって探していく事も重要だ。学ぶ意志を持つ人といっしょに学習する場が、開かれた学校と考える。学校での学習は、教室の中や、机上での学習や、知識の伝達だけではない。屋外に出て語らい、映像を見、一つの事をいっしょに観察したり、多様な学習の場を提供する。それにより、個性は伸ばされると考える。

1. 職員室は子供たちと先生とのコミュニケーションの場として開放されるべきである。カウンターを設けたり、自由に行き来できるように考える。
2. 教室の近くにアルコブ等の小空間を計画し、友達同士の交流を楽しむ。

## 多様性と安全性 管理しやすい学校施設づくり

近年の学校内での犯罪等を鑑みるに、管理者側から目が行き届く配置計画や、平面計画を考え、多様なニーズに対応できる計画を行う。

1. 職員室や校長室などの管理棟より、校庭や校舎全体が見渡せ管理できる位置とする。
2. 職員室はカウンターを設けたオープンな空間としそこから学校全体が管理できるようにする。
3. 管理棟や教室からは屋内や屋外を通り回遊できるようにアプローチを取り、避難経路も確保する。運動場へは普通教室棟からはウッドデッキを通してアプローチできるように計画する。

## 地域に根ざした学校 親しまれる木造校舎

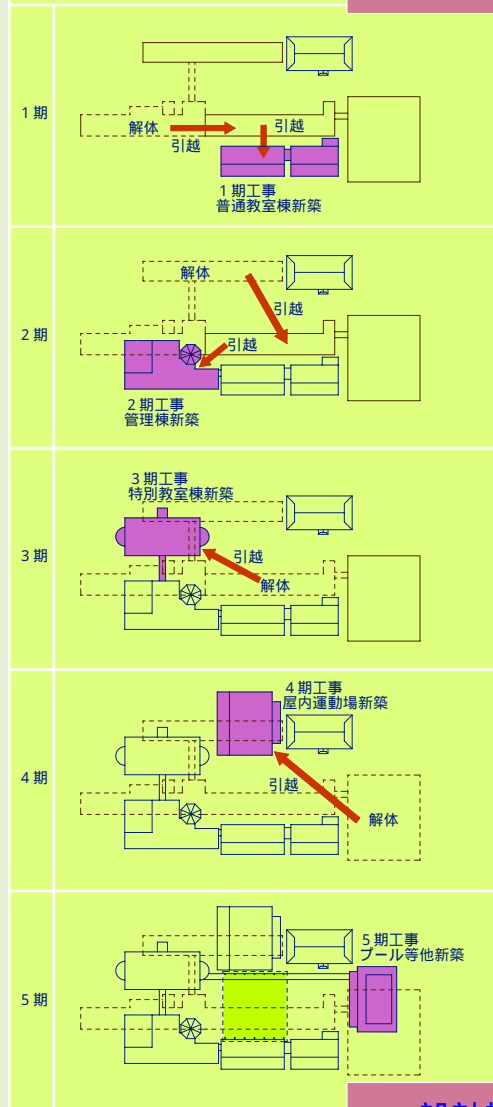
この地域の中心施設として、皆から親しまれる施設となるようにデザインしていく。IT環境の整備や、新エネルギー・省エネルギーの考えを積極的に取り入れ、計画を行う。

1. 地域の人々に親しみを持って愛され続けられるように、教室の一部を木造とする。建物の高さも抑えるために2階までとし学校のシンボルとして、図書室を八角形の木造の建物とする。
2. 屋内運動場と特別教室棟の屋根に太陽光発電のパネルを設置し、電気の供給と学習の教材として利用する。また、雨水を貯蔵して、中水として利用する。自然観察のスペースとして、ピオトープや自然観察林を計画する。

# 樹の香り漂う木造校舎

中学校建築  
設計案

### ローリング計画



設計趣旨